

Comment

Effect on *Helicobacter pylori* eradication therapy against gastric cancer in Japan

Helicobacter 22: e12415

本論文では、*H.pylori* に関連した胃炎への除菌治療が国民健康保険制度の適応拡大された後に *H.pylori* 除菌療法への処方数が著しく増加し、その結果胃癌による死亡者数が有意に減少したと主張している。この結果に関連して 2 つの重要な点があると思われる。1 つ目は本論文では触れられていないが、*H.pylori* 除菌療法の保険適応拡大後も胃癌の罹患率が必ずしも減少していない点である。2 つ目は内視鏡検査の普及や、ESD といった内視鏡的な胃癌の治療技術の向上により、早期発見、早期治療される症例がここ数年増えてきている点である。この 2 点を踏まえると胃癌による死亡数の低下は必ずしも *H.pylori* 除菌療法の保険適応拡大のみによるものではない可能性がでてくる。しかし、*H.pylori* 除菌治療は胃癌発症の減少には欠かせない要素であり、医師は日々の診療の中で可能な限り多くの *H.pylori* に関連した胃炎に対して除菌治療を行っていくという姿勢が必要である。

(大分大学医学部消化器内科学講座 和田 康宏)
